

景気動向調査 令和5年4月分（令和5年4月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

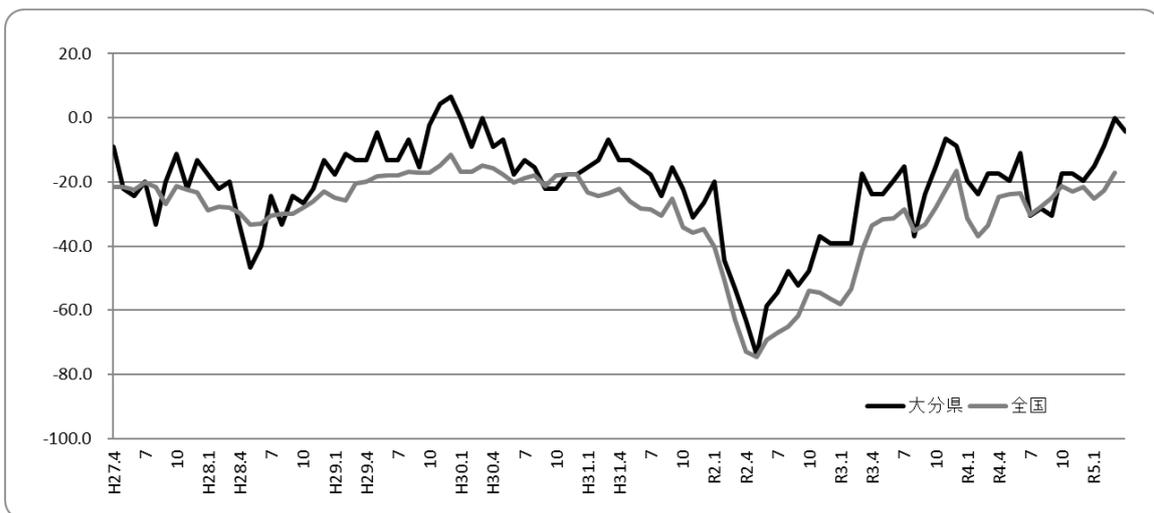
この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【4月の景況】

4月のDIは、9指標のうち、2指標が好転、6指標が悪化、1指標が変わらずという結果となった。主要3指標は、4ヶ月ぶりにすべての指標が悪化。先月と比較して、売上高DIが15ポイント減少、収益状況DIが10ポイント悪化、景況感DIも4.3ポイント悪化となっている。

大分県内の状況は、春休みやゴールデンウィークを中心に人流が活発化。小売業やサービス業を中心に、来店客や来街者の増加に関する報告が寄せられている。

なお、原油や原材料の価格高騰による価格転嫁を受けて、販売価格DIは続伸しており、依然+35ポイントと高い水準にある。



景況感 DI 値

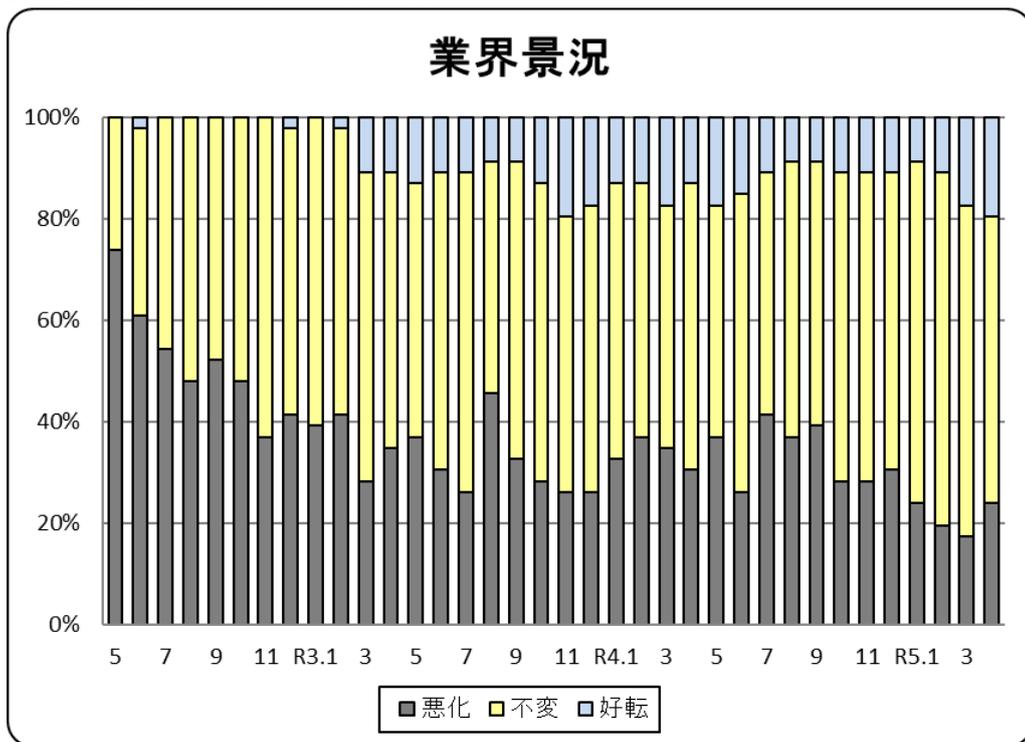


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

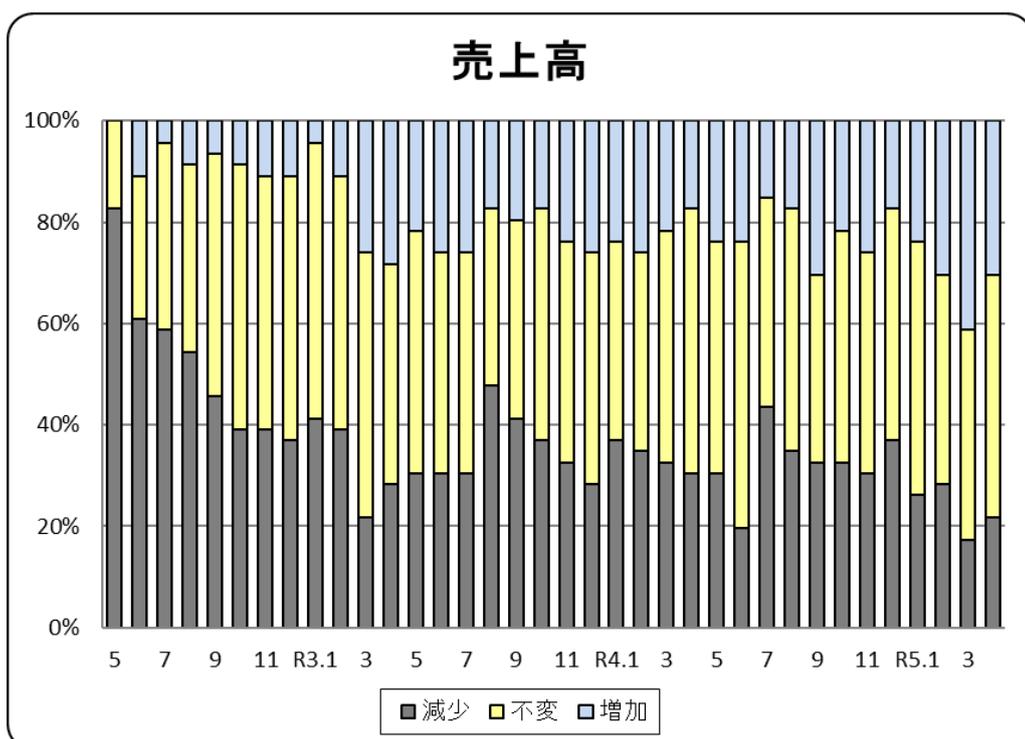
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、前月より15ポイント減少して+9ポイント。収益状況DI値は、 $\Delta 17$ ポイントで前月より10ポイント悪化。雇用人員DI値は、 $\Delta 2$ ポイントで前月から変わらずとなった。

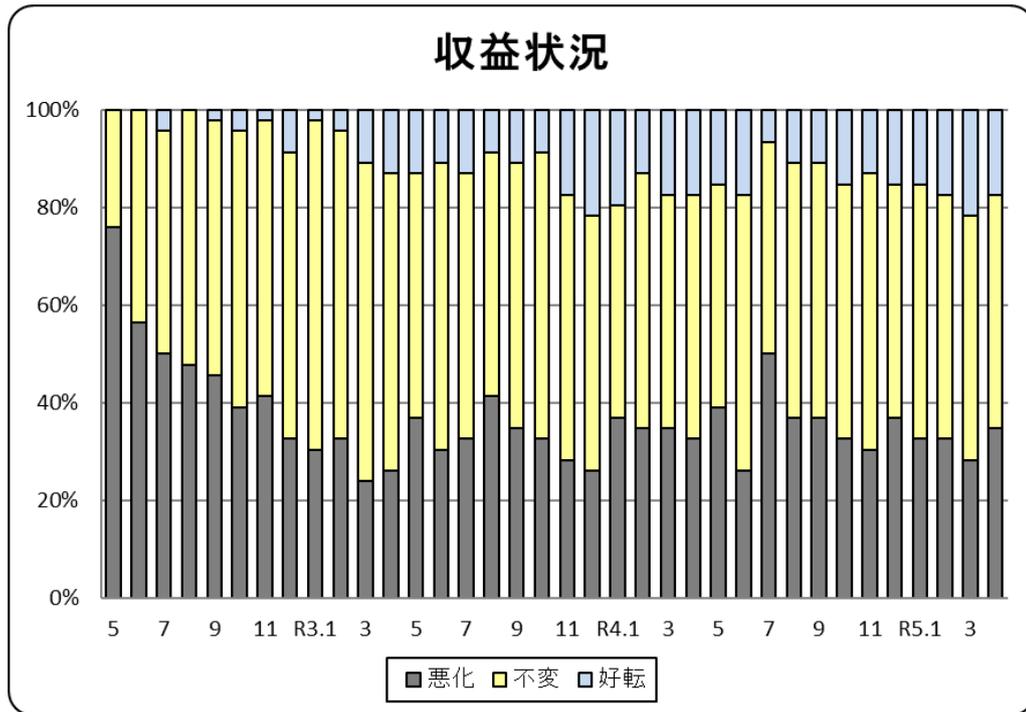
景況の動向は、好転は9組合、悪化は11組合であった。DI値は $\Delta 4.3$ ポイントで前月から4.3ポイント悪化。割合で見ると、好転20%、不変56%、悪化24%であった。なお、製造業の景況感DI値は $\Delta 18$ ポイント、非製造業の景況感DI値は+3ポイントであった。



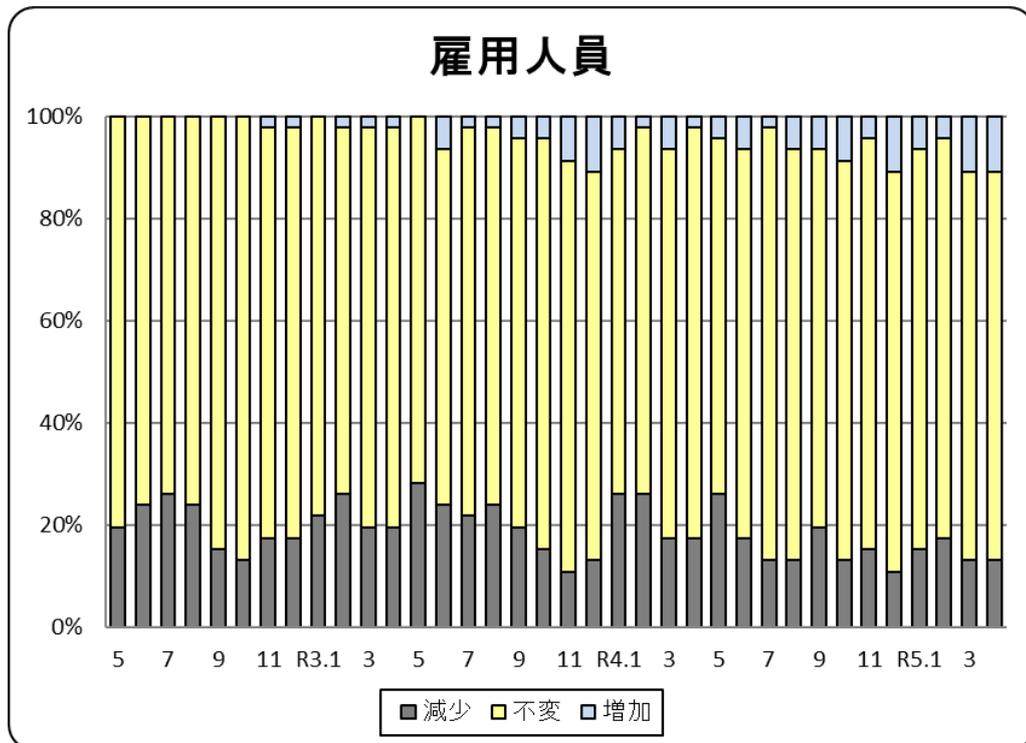
売上高の動向は、増加は14組合、減少は10組合であり、DI値は+9ポイントで前月から15ポイント減少。割合で見ると、増加30%、不変48%、減少22%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は8組合、悪化と回答した組合は16組合であった。DI値は△17ポイントで前月から10ポイント悪化。割合で見ると、好転17%、不変48%、悪化35%であった。



雇用人員の動向は、増加は5組合、減少は6組合であった。DI値は△2ポイントと先月と変わらず。割合で見ると、増加11%、不変76%、減少13%であった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数－減少・悪化組合数)／調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

